

20歳の命と人生見詰め

旭区・光陽養護学校 あす新成人の集い

各地で社会問題化したのが「生きがいた」と
ボランティアを訪れる。
作りの温かきがある。
洋子さんは「子どもたち
には人を引きつけるパワー
がある。時間がかかる
と宣告された。肺炎やは
分だけ、良いところがある」
しかなどで20回以上、入
退院を繰り返した。4、
親たちが、近況報告な
どを感じ込んだ「集い」

5歳になって初めて笑
い、泣いた。母親の久子さ
を企画した。昨年、19歳
の長男、勝彦さんを亡く
した都島区の岸田泰子さ
ん(49)も「息子とともに
仲間を祝いたい」と準備
を手伝っている。当日は
写真を持って参加する。

東成区の菅由香里さん
(20)も体内に腫瘍ができ
て呼吸困難などを経験し
た。母、洋子さん(41)は
卒業時の校長、西野茂
さん(61)が祝辞を述べ

障害者の通所施設を新設
する。障害の程度や事情
がみな異なることから、
「それぞれの発達段階に
値が下がる」などと計7
軒に断られ、悔し涙を流
現できるようになってほ
しい。亡くなった同級生
1月にデイセンターを開
いた。新成人のうち5人
が通うこの施設には近所

「花岡洋子」
べるつもりだ。

手作りで卒業生を祝福

亡き友の家族や恩師らと交流

大阪市立光陽養護学校
(旭区)で25日、脳性ま
ひなどで手足が不自由な
卒業生11人の「新成人の
集い」が開かれる。生ま
れつき体力が弱くて「1
歳までの命」と診断され
たり、大病を克服してき
た新成人が多い。一方、
小学校時代からの同級生
は4人が亡くなった。恩
師や親ら70人が、20年前
に誕生した「命」を祝福
する。「命」の成人式
は、若者が騒ぐなどして



成人式を迎える菅由香里さん(右端)と
木村真理子さん(左から2人目)